Faculty of Informatics, Shizuoka University Newsletter, vol.9, October, 2012

Joy風 vol.9

October 2012
静岡大学情報学部
http://www.inf.shizuoka.ac.jp

平成24年度入学式・保護者懇談会が開催されました

情報学部学生委員長　渓村 和明

4月4日（水）に平成24年度の入学式が静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）大ホールで執り行われました。207名の新入生が情報学部の仲間入りを果たしました。式後、「情報学部新入生保護者懇談会」が開催され、北は北海道、そして、南は九州から保護者の方が参加されました。情報学部からは学部長、浜松工業会会長、情報科学科学科長、情報社会学科学科長、教務委員長、学生委員長、キャリア支援室長、国際交流委員長が参加し、情報学部の現状、教育、就職、学生生活、同窓会、留学等について説明をさせていただきました。今回124名（科学科62名、社会学科62名）の保護者の方からアンケートを回収することができました。ほぼ7割の保護者の方から保護者懇談会は「有意義である」との回答をいただきました。昨年度と同様に今年度も懇談会の開催時間を早めてほしいとの要望があり、来年度の懇談会は12時からの開催となります。

▲学部長と保護者のフリー懇談の様子（2012.4.4）

新入生歓迎合宿イン伊良湖

情報学部学生委員長　渓村 和明

情報学部生が2年間、静岡キャンパスで学んでいた頃、新入生歓迎合宿は御殿場の国立中央青年の家（現在の国立中央青少年交流の家）で行われていました。教員主導の合宿で、新入生は講演会や学習会に参加していました。浜松キャンパスに移ってからは上級生スタッフが新歓合宿を計画し、愛知県渥美半島の先端に位置する国民休暇村伊良湖で行われています。今年の新歓合宿は4月21日（土）と22日（日）の両日に行われました。新入生は、上級生スタッフが企画するバーベキュー、レクレーション（三つ巴しっぽとり）、そして、懇親会に参加をして、同級生や上級生との親睦を深めました。今年は合宿に参加をした新入生、上級生スタッフ、教職員が何事もなく無事に合宿を終えることができたことが何よりの報告となりました。これも上級生スタッフの用意周到な計画の賜物であると感謝しています。来年も長く記憶に残る有意義な合宿となりますようにお祈りいたします。

▲バーベキューを楽しむ学生たち（2012.4.21）

夏季オープンキャンパスが開催されました

情報学部広報委員長　許山 秀樹

酷暑の中、8月7日（火）に、情報学部オープンキャンパスが開催されました。北は北海道から、南は大分まで、全国から600人以上の高校生・保護者の方が出席されました。今年も大盛況で、二つの教室を結んでの開催でした。

全体説明会で、荒川学部長から情報学部の意義について説明があり、広報・入試・就職の各委員会から説明をしました。そのあと、3プログラムの教員がミニ講義を行ないました。今年度は、横山昌平教員が「インターネットは善か？悪か？」、漁田武雄教員が「認知心理学：こころ（脳）で行われる情報処理」、田村敏広教員が「言語コミュニケーションを分析してみよう」の講義を行ない、情報学の様々な側面を紹介しました。

また、1階のスペースを利用して、12の研究室がブースを設けてポスター展示やデモを実施しました。

今後も、高校生がよりよく情報学部を理解して受験できるような環境を作っていきたいと思っております。

▲入試相談に応じる入試委員会の先生たち（2012.8.7）

▲オープンキャンパスで研究を紹介する学生（2012.8.7）

【学生紹介】

口笛は音楽だ！

情報社会学科2年　高田 みずほ

日本では、昔から「口笛を吹くとお化けが出る」とよく言われますが、国際的には口笛は音楽として認められつつあります。

口笛は小さいころから吹いていました。祖母がたまたま、テレビにwhistlers(口笛奏者)が出ていたのを見て、私にその情報を教えてくれました。これが口笛を「本格的にやろう!」と思ったきっかけでした。大学生になってから名古屋の口笛サークルに所属し、口笛技術や表現力を身につける努力をしてきました。

そして今年の4月、念願の「International Whistlers Convention 2012（アメリカのノースカロライナ州で開催された国際口笛大会）」に出場し、19歳までのティーンの部のクラシック部門、ポピュラー部門で2位、アライドアート部門で1位を受賞しました。2位だったことの悔しさは残りますが、自分なりの表現をすることができたので嬉しかったです。

しかし、口笛が音楽だと認められるにはかなりの時間が必要なようです。大学内で吹いていて怒られることもしばしばですが、技術や表現力を磨き、口笛が3オクターブ以上でる、ビブラートもできる立派な楽器であることや、オペラのアリアも演奏するし、オーケストラとも共演できることなど多くの人に伝えていきたいです。また、現在情報学部で学んでいることを何かしら生かしていければなと思っています。これから私たち若者が口笛音楽の可能性をどんどん広めていこう！口笛は音楽だ！

▲第39回国際口笛大会にて（2012.4.24）

ビジネスコンテストに参加して

情報科学科4年　笹野 拓人

情報学部の学生が主催する「第一回静岡大学ビジネスコンテスト」に、私が所属している高口研究室の仲間と共に参加いたしました。コンテスト当日までに約2カ月、企画会議とブラッシュアップを重ね、よりよいビジネスアイデアを追求しました。そして本番では、地元の経営者や税理士の方々に評価・採点していただき、学部生・院生合わせて8組の学生が出場した中から優勝という名誉をいただくことができました。

私たちが提案したものは、「地元の『デザイン系学校』を対象としたデザインコンテストを開催し、集まったデザインをPC保護シールとして商品化」するというビジネスです。実際に細かい損益を考えたり、製品サンプルを作成したりしたものを経営者の方々に評価していただくのはとても良い経験になりました。

またコンテスト主催者のはからいで、翌日の中日新聞の経済欄に掲載していただきました。その影響もあり、来年はより多くの関心をあつめる大規模なイベントになるかもしれません。このような経営的思考を実践的に学ぶことができるイベントが静岡大学で発展していくことで、私たち静大生が、社会から頼られる人材として今まで以上に期待されるようになればと思います。

▲ビジネスコンテストにて（2011.11.24）

〝公共スペース〟創出の実証実験 図書館cafeオープン！

情報学研究科2年　亀井 祥史

4月3日から、附属図書館浜松分館と吉田研究室の合同企画として、図書館前のオープンテラスに露店形式のカフェをオープンしました。大学院生が中心となり、現在6人のメンバーで運営をしています。

〝公共スペース〟の創出を目的とし、カフェという空間を通し新たな出会いや情報の発信、受信から浜松キャンパスの文化の醸成に役立てればと考え活動しています。

平日12時～18時までの営業で野外での設営のため、大雨の日や強風の日はお休みさせてもらっています。浜松キャンパスを見直す小さな写真展や地味な浜松キャンパスを華やかにする浴衣デイなど、キャンパスの活性化を考えた企画も行っています。図書館カフェらしく図書を絡めた企画も現在計画中です。

梅雨頃など客足が途絶え厳しい時期もありましたが、常連と呼べるお客さんもでき私自身この活動を通して、新たな出会いが沢山ありました。

人との出会い、本との出会い、新しい発見・経験との出会い。図書館カフェが、多くの学生にとって様々な出会いを作っていける場所になるよう、残りの期間頑張って行きたいと思います。

▲図書館cafeの浴衣デイの様子（2012.7.4）

「ふじのくに親善大使」になりました！

情報学研究科1年　ティダー　サシプリーヤジャン

私はタイ出身の留学生です。大学院では杉山岳弘先生の研究室で、博物館における知識情報のコンテンツデザインに関する研究をしています。日本へ来た当初は、進学することだけを考えていましたが、静岡大学で勉強するうちにだんだん日本の文化や習慣も知りたくなりました。ある日看板で静

岡県が「ふじのくに親善大使」を募集している知らせを目にしました。私は親善大使になったら、大好きな静岡県への理解を深められるし、静岡県と世界との交流活動もできると考え、申請し、そして合格することができました。

最初の仕事は島田市立第二小学校の友達の日集会でした。最初、6年生が日本の伝統的な太鼓の演技や剣道、空手の演武を披露してくれました。次にグループを分けて、各国の親善大使がそれぞれの国を紹介しました。私は6年2組の子供たちと東南アジアの地図や国旗のゲームをやったり、カノム・トウキョウ=「東京のお菓子」（なぜ東京なのかは分かりません）というクリームやソーセージを包んだタイのお菓子を作って一緒に食べたりして、楽しく過ごすことができました。今後も研究だけでなく、このような活動を通じて静岡の様々な地域の人々と触れ合っていきたいと思っています。

▲島田市立第二小学校の友達の日集会にて（2012.7.5）

財産をつくる

情報社会学科2年　吉田 彩華

私は、今年に入りボランティアやイベントの代表などの様々な経験をする機会がありました。

春休みには、宮城県山元町で行われているボランティアに参加しました。津波により流されてしまった家屋などから集められた写真やアルバムを洗浄し、地元の方々にそれらをお返ししていく、といった内容のものでした。被災地を訪れ、海から延々と広がる更地に強いショックを受け、何の言葉も出なくなってしまったことをよく覚えています。

また、コミュニケーションスキルズⅡという授業の一環で7月7日に行われた七夕パーティの代表をさせていただきました。学生や先生方だけでなく、大学近隣の住民の方をはじめ、多くの方々にご来場いただき、無事にパーティを行うことが出来ました。企画立案、マネジメントと楽な仕事ばかりではありませんでしたが、やりがいを感じながら仕事をこなしていくのは楽しかったです。

大学では授業を選択すること以外にも、沢山の機会が溢れています。好きな先生の授業をとるもよし、サークル等で交友関係を広げるもよしですが、一歩学外に出て学外の人と交流を持ってみる、学内でも様々なチャンスに自らチャレンジしてみる、という冒険をしてみるのもよいと思います。

楽しみ、やりがいを感じ、感動したこの経験は私の財産だと思っています。この経験から得られた大切な財産を今後の活動に生かし、またそれらを将来の自分の礎にしていけたらと思います。

▲洗浄した被災地の人々の写真（「日本社会情報学会災害情報支援チーム活動ブログ」http://jsis-bjk.cocolog-nifty.com/blog/ より）

▲毎年、佐鳴会館で開催される七夕パーティの様子（写真は 2011 年度）

【授業紹介】

七夕／クリスマスパーティ ～実践的な授業の試み～

情報社会学科教授　ウィルキンソン ヴァレリアン

コミュニケーション・スキルズⅡという授業では、毎年、七夕／クリスマスパーティの企画・運営を通して組織的コミュニケーションを実践的に学んでいます。組織的コミュニケーションとは、米国で開発されてきた経営手法（プロジェクトマネジメント等）において重視されている活動の一つです。プロジェクトの成功や人材・アイデアを生かす組織運営のためには、運営メンバー間のコミュニケーションが大変重要だといわれています。

授業では、まず、組織的コミュニケーションとは何かを英語で講義します。テキストは、米国の経営思想に大きな影響を与えたP.センゲ氏の本"The Fifth Discipline"（『最強組織法則：新時代のチームワークとは何か』）などを用います。次に、パーティを企画・運営し、組織的コミュニケーションを体験的に学習します。パーティは、情報学部生だけでなく、他学部の学生、そして学外の方にも開かれています。多くの方に参加してもらえるパーティを開催するためには、多方面への働きかけ・交渉が必要です。受講生たちは、大学内外の団体やコミュニティとやりとりを行う中で、チームワークやコミュニケーションの重要性に気づいていきます。最後に英語で行われる期末試験でもこのことが問われます。

今年は、パーティ終了後に、ここ数年、学外からご参加くださるシニアの方々（定年退職後に地域活動をしている方々）に集まっていただき、今後のパーティ運営や授業についてご意見をいただきました。大学の枠をこえ学生の「学ぶ環境」を開発する大変よい試みであるという評価の一方で、授業のやり方については改善点もご指摘いただきました。12月にはクリスマスパーティを行いますが、今後も皆様のご助言を参考に、学生共々よりよい授業にしていきたいと思います。保護者の皆様方も是非パーティにご参加ください。

▲学外シニアの方々との会合風景（2012.7.25）

《新任教員紹介》

情報社会学科講師　プレーバー マックス

本年4月に着任いたしましたプレーバーと申します。専門は言語学（英語教育）で自己効力感の研究を主に行っております。自己効力感とは、人が何らかの行動を行う際に、自分がそれを期待されるレベルで達成出来るかどうかに対する自己評価のことです。私の

授業では、学生自身が積極的に授業に参加し、プレゼンやコミュニケーションを通して英語力を伸ばして行けるよう、楽しく丁寧に指導していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

情報社会学科講師　田中 柊子

4月から情報社会学科に勤務しております田中柊子です。チェコ出身でフランスに亡命した作家クンデラを中心に、小説の構造や思想の分析、作品に表れるユーモアや人間観などの文化的・歴史的背景の考察を行っています。小説の「情報」は複雑で読み解くのに時間と労力を要するものです。授業では小説という「情報」の伝達手段と受容方法の特殊性を紹介しながら、私たちの日常や社会の仕組みをじっくり読み解いていきたいと思います。

情報科学科助教　猿渡 俊介

4月に着任した猿渡です。専門は携帯電話や無線センサネットワークなどのモバイルシステムです。コンピューターの最大の特徴はプログラマブルであることです。インターネット上に構築された仮想空間ではプログラミング能力がありさえすれば想像したものはどんなものでも実現できます。コンピューターのプログラマブルであるという特徴を実空間に持ち込んで実空間の全てをプログラマブルにしたいという欲求から研究に励んでいます。

平成24年度の情報学部・情報学研究科学生の就活状況

情報学部キャリア支援室就職担当　佐治斉・藤井史朗

静岡大学情報学部では、これまでも学生の就職支援には力を入れて来ています。特にこの数年では、情報学部主催の合同企業説明会や各種の就職ガイダンスを充実させるとともに、両学科とも就活生への個別面談に力を入れてきました。また、学部3年次生、そして大学院1年次生対象のインターンシップの参加者数もここ数年で着実に増加してきており、本年度は浜松市役所などを始めとする官公庁、県内ならびに東京や名古屋を中心とした優良企業（主にソフトウェア関連会社）に、計30名以上の学生が今夏2週間以上の研修を予定しております。そのため、2008年のリーマン・ショック以降の不況の中でも、学部において平成22年度は98.7％の内定率、23年度も95.1％の内定率となり、『週刊東洋経済』（2011.10.22）でも全国13位となっています。平成24年度は、昨年度よりも好調に内々定報告が続いています。

情報科学科では、例年通り、早い時期から学生に対して、就職活動に関わる様々な情報を伝えるガイダンスと、個人面談を何度も行い、早め早めに就活指導を行ってきました。

その結果、7月段階で学部も大学院も80％以上の学生が内々定を得ております。まだ内々定を得ていない学生については、複数人の担当が個別に指導しており、本人の希望と適性、及び企業側の採用活動の現況を踏まえ、学生が最高の結果を得られるよう支援しております。

情報社会学科では、就活生がより現実的な進路選択を果たし得るように、これまでより早くから学科推薦の募集を開始し、また大学生活への積極的なかかわりも含めた就活指導をより細かく行うように努めました。7月上旬までに昨年度をかなり上回る40名弱の4年生が就活相談に訪れ、志望理由・大学時代の学習・自己分析その他の相談・指導を細かく行い、7月上旬までに3分の2の学生が内々定を得ています（院生は88.2％）。企業もなお3分の1強が採用中であり、夏休みを挟んで、3分の1の学生がさらにリフレッシュして就活に臨めるように指導を進める所存です。

▲インターンシップ報告会（2012.7.19）

学位記授与式・卒業祝賀会の報告およびご案内

平成24年3月22日、平成23年度学位記授与式が浜松市教育文化会館（浜ホール）で開催され、情報学部卒業生（167人）、大学院情報学研究科修了生（62人）に、学位記が授与されました。引き続き、卒業祝賀会がホテルクラウンパレス浜松で開催され、卒業・修了生の旅立ちを祝いました。

本年度の学位記授与式・卒業祝賀会は、平成25年3月22日、何れも昨年と同様の会場において開催いたします。学位記授与式ご臨席の保護者様が多数の場合、充分な席数を確保することが困難であることを予めご承知置きください。また、卒業祝賀会は、卒業・修了生と教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

▲「マイナビ」ガイダンス（2012.7.19）

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部では、保護者・受験生・社会人・一般・企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/

お問い合わせ

〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1501 FAX：053-478-1503
E-mail pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp

平成24(2012)年度　後期行事予定表

2012年

10月1日	後期授業開始
11月10・11日	静大祭・テクノフェスタ（浜松）
11月10日	情報学アラカルト講座 保護者懇談会・個別面談
11月17・18日	静大祭（静岡）
12月18日	シドニー大学短期集中コース（～1月5日）
12月22日	集中講義（～12月25日）
12月26日	冬季休業（～1月5日）

2013年

1月7日	授業再開
2月4日	後期試験期間（～2月8日）
3月17日	学位記授与式（静岡）
3月22日	学位記授与式・卒業祝賀会（浜松）
3月25日	春季休業（～3月31日）